

# みやけの風

## 第 137 号

平成15年(2003年)8月16日(土)発行  
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター  
 発行責任者：上原 泰男  
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階  
 東京ボランティア・市民活動センター 気付  
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646  
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

お盆ですね。ご先祖様や避難中に亡くなった方の御霊は海を越えて故郷の三宅島に帰っているのでしょうか。それとも、供養してくれる人のいる避難先に来ているのでしょうか。きっと、そのどちらにも帰って来ているのでしょうか。ちょっと、忙しいかもしれません。空を眺めながら、ふと、そんなことを思いました。

### みんなの声

#### 「ふるさとふれあい体験」で

#### 児童・生徒が渡島 ～三宅島復興人材育成事業～

8月3日から5日にかけて、三宅島の児童生徒を対象にした「ふるさとふれあい体験」を三宅島で行いました。(3日～4日は阿古・坪田地区、4日～5日は三宅地区と2回に分けて実施)昨年夏にも行ってありますので、児童生徒が一時帰島するのは2度目となりますが、今回は名称を「ふるさとふれあい体験」に変え、自宅や島の学校のみならず、復旧作業現場やクリーンハウスの見学、海岸の散策なども行ってきました。

当日は梅雨明け宣言と同時で、しかも台風10号の発生前という好天にも恵まれ、小学生91名、中学生46名、高校生56名、保護者128名、合計321名の参加がありました。行きの船中で、久しぶりに会う友達や先生と楽しく話した子どもたちは、朝4時半起床にもかかわらず、島に到着すると元気いっぱい活動を始めました。はじめに3時間ほど自宅で過ごし、その後復旧現場をバスで見学しながら、学校別に錆ヶ浜や釜方(三宅地区は大久保浜)の海岸散策を行いました。子どもたちは3年ぶりに降り立つ海岸で大きな歓声をあげ、「やっぱり三宅の海はいいなあ。」といった感想をたくさん話してくれました。

また、新設されたクリーンハウスを初めて見る子どもたちからは、「きれい!」「お風呂が広いなあ」「ここに泊まってみたい」といった声があがりました。

小中学校の体育館で昼食をとった後は、学校の自由見学。「あの時のままだ。」3年経つにもかかわらず、自分の席を覚えていた

子どもにも驚きましたが、音楽室で様々な楽器を楽しむ子どもたちや屋上で楽しく追いかけて遊ぶ元気な子どもたちの姿を見て、早くこの学校で一緒に勉強したり遊んだりしたいという帰島への思いをあらためて強く感じたのでした。

たとえ避難中であっても、子どもたちにとっては学習に遊びに自分を伸ばすとても大切な時期です。ですから、転出先の学校で充実した生活を送ってほしいと思っておりますが、同時に島の学校のよさや友達とのつながりも大切に思っていてほしいと願っています。

その意味で今回のふるさとふれあい体験は大変貴重なものになりましたし、今後も様々な交流行事を充実したものにしていきたいと思っております。

(三宅小学校教頭 宮澤 晴彦)

### 3つのりの話 IN 葛飾三宅会

8月に入り、暑い夏がやって来ました。三宅島の海を思い出しています。今、子どもたちは夏休み中。三宅にいた頃は、東京から孫たちが友だちを連れて遊びに来て、毎日海で泳いだり、釣りをしたりと真っ黒に日焼けして帰った時の事も、避難して3年目、今は思い出となりました。

「三宅島かよ緑の島か 小鳥さえずる唱の島」あの頃の賑やかな三宅島に、一日も早く戻れる事を祈っています。

8月9日(土)台風10号通過で、風雨のほげしい中を葛飾三宅会出席者19名、三宅支庁の方5名が来て下さり、現在の島の様子や宿泊施設(クリーンハウス)のビデオを見ながらの説明、富賀神社をはじめいろいろなところの様子がよくわかり、大変よかったです。

次に火山ガスについて、三宅島で生活するための3つの話がありました。

- 1、リスクコミュニケーション  
 専門家 ↔ 島民(理解のための  
 専門家との情報伝達)
- 2、リスク  
 「かもしれない」色々なことを考え、  
 被害を最小限に抑える(可能性)
- 3、リスク受容  
 健康への影響を最小限に抑える(自分  
 は自分で守る)

との話をしていただき、大変わかりやすい説明でした。今のガスの状況では、帰島が何時になるかわかりませんが、帰島したときは、3つにりをよく理解しておくことが大切です。

この後、村役場職員とのミニ懇談があり、一時帰島・宿泊帰島時のごみ問題等の話合いがありましたが、みんな一日も早い帰島を願っています。

お願い雄山よ、心を静めて、「島民よ帰ってこいよ」と叫んでくれ！！

(葛飾三宅会 廣瀬 和平)

## 郵便局から転居届(ハガキ)提出のお願い

郵便局では、三宅島の住所に宛てられた郵便物を、皆さまの避難先に転送(お届け)しております。転送できる期間は、「届け出から一年間」という規定があります。これを過ぎると、郵便物をお届けできなくなることもあり、大多数の方が届け出をされた8月末から9月にかけてこの時期、また、この時期以外に届け出をされた方も合わせて、再度「転居届」の提出をお願いしております。

### 記入にあたってのご注意

これまでは、転居届に記入されていないお名前の郵便物も、できるだけ転送していましたが、受け取られたお客様にご迷惑をおかけしてしまう事があります。

そのため、今後は転居届に記入のない宛名の郵便物は、差出人様にお返しすることとさせていただきますので、「同居していない家族」や「以前営んでいた事業所(屋号)名」など、三宅島の住所宛てに届く郵便物で必要なお名前は、すべて記入されるようお勧めします。

ご不明な点は、下記まで問合せください  
 三宅島坪田郵便局臨時出張所  
 フリーダイヤル 0120-380-646

## ～ 三宅島噴火災害避難3年～ 帰島・復興を考えるフォーラム

### 開催のお知らせ

三宅島は全島避難から丸3年を迎えましたが、未だ帰島の時期は未定です。しかし島民としては、この節目となる時期に帰島や復興を前向きに考える必要があると考えています。このため帰島や復興段階で予想される課題を明確にし、その上でこの前例のない災害に対処すべき姿勢を模索するためにフォーラムを実施します。

日時：平成15年8月31日(日) 13:30～17:00  
 場所：豊島区民センター・文化ホール(6階)

#### <プログラム>

主催者あいさつ 三宅島島民連絡会 会長 佐藤 就之

第一部 アンケート結果の報告

第二部 「帰島・復興を考える」フォーラム

島民連絡会が実施したアンケートをもとに意見交換をします。

第三部 アトラクション

子どもの作文発表予定/歌唱・壬生明彦氏(望郷の歌)/三宅島島民合唱団『アカコッコ』  
 一部変更する場合があります。

島民・一般の参加も自由です。お誘いあわせの上、ふるってご参加ください。入場無料。